



一度離れたからこそ見えてきた介護の魅力

祖父の介助で芽生えた使命感から介護職へ。一度は介護の現場を離れたものの、他職種で感じた物足りなさから、介護の仕事の尊さを再認識し介護職に復職した『介護の魅力』を伺いました。



これまで村上さんがご経験されたお仕事について教えてください。

職員 A (インタビュアー)

高校を卒業してから介護老人施設（老健）で4年間勤務しました。その後いろいろあって介護職を離れ、1年間美容室の受付業務をしていました。再び介護職に復帰して今年で4年目になります。最初は高収入に惹かれ夜勤専従での勤務でしたが、今は管理者として働いています。



村上明里様 (インタビュイー)



いろいろですか……。それでも介護職に戻ろうと思ったきっかけや、『管理職』になられた経緯について詳しくお聞きしてもいいですか？

はい。当時は介護職に対してあまりいい印象を抱いていませんでした。一般的に介護職はきつい、汚い、危険の3Kと言われていましたし、実際私が抱いていたイメージと現実のギャップも感じていませんでした。同世代の若い子達は可愛いネイルに化粧をして、キラキラ輝いているように見えて、なんで私はこんな仕事をしているんだろうと思い悩むようになり、「他の仕事をしてみたい」と介護の仕事を離れることにしました。介護を離れてからは美容院の受付業務をしていました。最初は新鮮で楽しかったのですが、徐々に私には物足りなく感じるようになっていきました。そのタイミングで身内が病気で介護が必要になり、生活していく不便さやよく転んでしまうという話を聞いていく中で、誰かの手助けが必要な人達を助けたい、人の役に立ちたいという思いが強くなり介護職に復職しました。



弊社は『社会福祉法人』でも『医療法人社団』でもなく『株式会社』です。私も面接時に聞いたのですが、入居者の斡旋や営業等の頑張りにより給与に反映されるシステムになっています。評価制度がありますので正社員・パート問わず、やる気がある方はとてもやりがいがあると思います。男女関係なくスキルアップできますし、全15施設に女性の施設長が3名おります。管理職の7割は女性という会社ですので、頑張り次第で私のように20代での管理職も可能です。





葛藤を乗り越えて『人の役に立ちたい』という強い思いで復職された事が伝わってきますし、それらのご経験が今の介護への姿勢につながっていると思います。復職されて大変だったこともあるかと思いますが復職して良かったなと感じる瞬間はありましたか？

はい。もちろん復職当初は排泄介助や入浴介助など身体的にしんどいこともありましたが、業務をしていくなかで慣れていきましたので、そこまで苦ではなかったです。それよりも介護の仕事は正解がない事に苦戦しました。その人その人にあった対応をしていかなくてはいけないという難しさがあります。ただ、正解がないからこそ、この仕事は本当にやりがいがあるなと感じています。誰かの為になっているという実感や、利用者様からの『ありがとう』という感謝の言葉をいただいた時は介護職に復職して本当に良かったとしみじみ思います。



正解がないからこそ難しいという点に共感しますし、その中でやりがいを見つけている姿が素晴らしいですね。利用者様の『ありがとう』という言葉は、介護職ならではの魅力の1つだと思います。最後に、これから介護職にチャレンジしたいという方に向けてメッセージをいただけますか？

はい。介護の仕事は決して楽ではありませんが、その分、人の役に立っているという実感を強く得られる仕事です。

『ありがとう』という言葉を通じて直接いただける瞬間は、他の仕事ではなかなか味わえない大きなやりがいです。

迷っている方は、ぜひ一歩踏み出してみてください。

きっと自分自身の成長にもつながる素晴らしい経験になると思います。

一度介護職を離れましたが、本当に戻って良かったなと今では実感しています。皆さんも介護のお仕事にチャレンジしてみませんか？



インタビュー協力
村上 明理様
(写真左)

【協力事業所】

株式会社 ケアステーション様

お忙しい中
ありがとうございました。

